

## 事例②墨田区立両国中学校

防災・ボランティア学習  
「東日本大震災・熊本地震から学ぶ  
～両国中学校が避難所になったら～」

所在地：東京都墨田区横綱一丁目8番1号

学校長：田谷 至克

生徒数・学級数：661名（18学級）

教育目標：「風雪に耐えよ」

教育目標：「文武両道」「伝統と品格」

「世界に羽ばたく両中生」

1年生が「総合的な学習の時間」に地域防災をテーマに活動を実施した。地域の避難所に指定されている同中学校では、「災害発生時、行動できる中学生」「自分の身を守り、他者を助けることができる中学生」を目指し、特別活動を含め、年間を通じてさまざまな防災教育を行っている。授業では、緊急支援活動や災害発生後の避難所運営の講義を受け、起震車で地震の揺れを体感した。その後グループに分かれ応急手当や炊き出しなどの技術を学び、実際に被災地の支援につなげるための募金活動を実施した。集まった募金は、熊本地震や、東日本大震災の復興支援に役立てられた。

### カリキュラムマネジメント／授業運営の工夫

- ・学校は東京都慰霊堂の最寄りで、関東大震災で甚大な被害を受けた地域に立地している。その特色を生かし、「両国中学校が避難所になったら」という場面設定を行った。
- ・重視したのは体験的に「知る」活動。学習への動機づけを行うため起震車体験を最初に行った。
- ・一学年220名と多いので、全員で行うこと、グループに分かれて行うことを分けた。
- ・教科の特色を生かした体験活動を取り入れることにより(ピクトグラム、炊き出し、応急手当、募金活動、福祉体験、避難所運営ゲーム)、学年教員全体で指導にあたることができた。
- ・募金活動は、特別活動ともつなげ、学年横断的に取り組む機会を複数回設けた。
- ・限られた授業時数を有効に使うとともに、道徳、特別活動、土曜の学校公開、休み時間、使える時間は何でも使った。中学校の教員は、自分の教科指導にプライドを持っているので、教科で関連づけることをこころがけた。



起震車体験



避難所で起きることの講話(日本赤十字社)



福祉体験

#### 活動による変化：

- ・生徒の中に、社会のより大きな課題にも立ち向かっていきたいという意識が芽生えた。
- ・3年生の教員の発案で、チャリティーコンサートを実施するなど、学校全体として防災、被災地支援への意識が高まり活動が広がっている。

#### 教員の声：

- ・中学生はすばらしい力を持っているという思いが強まった。地域の人は中学生の話に耳を傾けて多くの人が力を貸してくれる。生徒もそれを受けて自分たちで提案したり改善しようとしてくれる。信頼して任せていいのだなと思った。

## 実施プログラム概要

- (1) 実施時期：平成 28 年 6 月～9 月
- (2) 単元名：防災・ボランティア学習  
「東日本大震災・熊本地震から学ぶ～両国中学校が避難所になったら～」
- (3) 学習目標：「地域を知ること」、「震災時に起こることを知ること」、「中学生ができることを考えること」、「自助共助の力を身に着けること」
- (4) 時数：10 時間
- (5) 対象学年：1 年生
- (6) 寄付金額：84,628 円
- (7) 寄付先：チャリティーリレーマラソン（※）に参加した熊本、東北の中学校

## 活動のきっかけ

・平成 27 年・28 年と墨田区教育委員会の研究協力校（人権・道徳）になっていたこともあり、生徒にアンケートを取ったところ、道徳的な意識が高いのに比べて行動する割合が若干低いことが分かった。また、規範意識が高く素直でまじめな子どもが多いが、自己主張を抑える傾向があり、課題となっていた。教育活動の中で、子どもたちの意識を行動に移す場面があれば、よりよい成長につながるのではないかと思いカリキュラムの設計に至った。

## 関係先について

- (1) 墨田区防災課 … 起震車体験、熊本県の状況講話
- (2) 日本赤十字社 … 炊き出し体験、応急手当、避難所運営ゲーム、募金/ボランティア活動、福祉体験
- (3) 小さな命の意味を考える会 … 東日本大震災での体験に関する講演

## チャリティーリレーマラソンについて

東日本大震災の復興支援を目的に、2011 年より開始（主催：公益社団法人日本フィランソロピー協会）。東北、東京、熊本（2016 年～）の中学生が、地域の課題を考え共有し、募金活動やボランティア活動、交流事業として東京都内を駅伝方式で走る「リレーマラソン」を実施する半年間にわたる社会貢献プログラム。詳細は公益社団法人日本フィランソロピー協会ウェブサイトへ。



ピクトグラムを考えよう



募金活動



活動の振り返り

### 生徒の声：

- ・自分たちが発信することで協力してくれる人がいる、ということが分かった。
- ・「もしも両国中学校が避難所になったら」という想定で、自分たちが行動することでどのような支援ができるか、冷静に判断するための練習になった。
- ・全力で誰かのために動く体験は、募金活動でしか得られないと思った。
- ・多くの人を助けられる力に自分になれることが分かった。
- ・活動を通して、そのことだけでなく、周りのことも分かり理解が深まることを感じた。また、根拠を持って説明すれば協力する人が増えることが分かった。
- ・理科の授業で日本は地震が多いと聞いた。防災ボランティアの冊子を参考にし、家庭でも備蓄食品で賞味期限が切れそうだったら揃えるようにした。

## 【総合】防災・ボランティア学習について

### 1. 時期

平成28年6月下旬～9月上旬

### 2. ねらい

- (大船渡中訪問や熊本地震募金活動を受けて高まっている、被災地支援の想いをひきだす)
- ・ 熊本や東北の状況を学び、自ら課題を見付ける
  - ・ 話し合い活動を通して、課題解決方法を考え、発信し行動する

### 3. 内容(各教科との関連)

『東日本大震災・熊本地震から学ぶ。～両国中学校が避難所になったら～』

- (1) 課題発見 『地震が起こると、こんな課題が生まれる(理由)』
- ・ 起震車体験 (理科：火山と地震、社会：自然環境)
  - ・ 熊本県や東北地方の状況を知る講話(国語：被災地の中学生による俳句)
- (2) 課題設定 『〇〇のために、〇〇をします』
- ・ 話し合い活動
  - ・ 熊本県や東北地方のためにできること
  - ・ 墨田区のためにできること (国語：話す・聞く力)
- (3) 課題追究、解決
- ・ 体験学習(ピクトグラム・炊き出し・応急手当・避難所運営ゲーム・募金活動など)  
(美術：表現、体育：傷害の防止、数学、英語)
  - ・ 慰霊堂、復興記念館訪問 (社会：身近な地域)
- (4) 振り返り、まとめ 『学習を通してできるようになったこと』
- ・ レポート
  - ・ 学習のまとめ冊子作成 (国語：書く力)

### 4. 流れ

時数	日程	内容	備考
1・2	6月24日(金)5・6校時	起震車・熊本、東北の様子	金⑤授業→総合へ
3	6月25日(土)2校時	体験で感じたことのまとめ	学年国語
4・5	7月1日・8日(金)6校時	話し合い・テーマ設定・計画づくり	
6・7	7月12日(火)3・4校時	体験活動	③道→11(月)①学活と入れ替え ④授業→15(金)⑥総合と入れ替え
夏休み中の課題 全員…学習レポート(まとめ冊子原稿作成)、希望者…ボランティア活動など			
6	9月2日(金)6校時	慰霊堂DVD鑑賞	学年社会
7・8	9月3日(土)1・2校時	慰霊堂・復興記念館訪問	1→①②③、2→④⑤⑥
9月3日(土)3校時 道徳 東日本大震災講話(佐藤さん)、集団下校訓練			
9月5日(月)までの課題 全員…慰霊堂・復興記念館、佐藤さんの話感想			
9	9月9日(金)6校時	まとめ冊子作成・読み合わせ	